

陸上競技部

関東インカレ

女子

圧巻

19連覇!!

男子

惜しくも

3位



写真提供 陸上競技部

5月14、15、21、22日の2週に渡り、第90回関東学生陸上競技対校選手権大会(以下、関カレ)が行われた。2年ぶりの総合優勝を目標に掲げた男子は力及ばず総合3位。女子は総合優勝を成し遂げ、平成5年以来続く連覇の記録をまた一つ更新し、19連覇を成し遂げた。

大会の様相

【女子】

大会初日に行われた1500m。赤松真弘選手(体育1年)が4位、上野泰加選手(人文2年)が7位。棒高跳は根本優子選手(体育2年)が4位、有川星女選手(体育3年)が6位と両種目とも2人が入賞し好調な滑り出しを見せた。

大会は2日目に入る。1000mにおいて、エントリートのランキング1位、2位、3位を独占する本学は、女子主将の佐野布田実選手(体育4年)が優勝しチームを引っ張る。中野瞳選手(体育3年)も2位に入り、5位に入った阿部瑛美選手(体育4年)と合わせて19点を獲得した。

2日間を終え、1週目終了時点で合計72.5点を挙げ、2位の中央大学に17.5点差をつけ折り返した。

1週目を挟み、迎えた関カレ3日目。前年の関カレで関東学生記録を打ち立てた、女子4×100mリレーチームが他を寄せ付けない走りですべて3連覇を達成。また、リレーの1走を務めた中野選手は、同日に行われた走幅跳で、6m18cmの好記録を残し優勝。中野

選手は前々年と前年に続き走幅跳3連覇。個人としてはリレーと合わせ3連覇&2冠を達成した。

大会最終日。ランキングで1位、2位、3位につける円盤投げ。優勝を逃しはしたものの、高橋亜弓選手(体育4年)が2位、日下望美選手(体育3年)が3位につける投擲をみせ優勝をたぐりよせた。

女子は4日間、計21種目の内17種目入賞し、合計145.5点を獲得した。2位の中央大学に12.5点差をつけ19連覇を飾った。

【男子】

初日の走高跳で昨年同種目を制した戸邊直人選手(体育2年)が圧倒的な強さで2連覇を達成し、2年ぶりの男子総合優勝に向けて好調なスタートを切った。

2日目に入る。昨年の関カレでは怪我のため欠場を余儀なくされた大室秀樹選手(体育3年)が110mHで優勝し昨年の悔しさを晴らした。また、三段跳では昨年の優勝者である松下翔一選手(体育4年)が、最終跳躍で自己記録を大きく更新する16m05cmの跳躍をみせた。優勝記録にわずかに及ばしなかったものの、2位に食い込む。毎年上位入賞が見られる混成十種競技。高橋尚選手(体育4年)が出場者の中で唯一の7000点台に記録をのせ優勝した。本学の十種競技優勝は13年ぶりである。

2日間を終え、1週目終了時点で合計64点の早稲田大学が1位につけ、2位には東海大学が、15点差の49点で3位に本学はつけ折り返した。

関カレ3日目。都内ではこの日、今年一番の暑さを記録したが、本学も多いに盛り上げた。走幅跳、3回の試技を終えた時点で本校のライバル東海大学の選手が1、2位につける。しかし、5回目の試技に入り、本学の嶺村鴻汰選手(体育1年)が7m70cmの跳躍をみせ逆転に成功。この記録が優勝記録となり、入学して間もない1年生の嶺村選手が優勝した。ここ数年元気のよい長距離種目。3000mSCでは丹治史弥選手(体育4年)が、箱根駅伝常連校である他大学の選手を抑え、関カレ4回目の出場にして初の入賞、2位に食い込んだ。円盤投げでは、優勝に届かなかったものの小野真弘選手(体育4年)が2位に、前田奎選手(体育3年)が3位に入り大量得点を果たした。こうして、3日目に大躍進した本学は総合得点を80点まで伸ばし、76点で3日目を終えた早稲田大学を逆転して、首位で最終日を迎えた。

筑波大学、早稲田大学、東海大学の上位3チームの差がほとんどないため、種目が終わる度に3チームの順位が入れ替わり会場の応援にも熱が入る。400mHでは応援の期待に応え、主将の渡邊諒選手(体育4年)が自己記録を更新する走りですべて3位に入りチームを牽引する。

しかしながら、本学が入賞できなかった200m、500mで早稲田大学、東海大学、筑波大学、中央大学、日本大学、日本体育大学、平成国際大学、国士舘大学の順で入賞し、本学は4位に終わった。

00mで早稲田大学、東海大学に得点を稼がれてしまう。さらには、本校が得意種目として昨年の関カレで優勝した最終種目4×400m。本学は予選で敗退し、早稲田大学、東海大学に離された。

全種目を終え、早稲田大学が総合得点119点、東海大学が111点、筑波大学が106.5点の3位で4日間の戦いを終えた。

男子は惜しくも3位、女子は圧倒的な強さで19連覇を飾った今大会。最上級生である4年生の力強さと、勝利への執念を見た。地震の影響により活動が制限され、他大学と比べ練習量が少ないにもかかわらず、素晴らしい走り、華麗な跳躍、力強い投げを選手は見せてくれた。9月に熊本で開催される全日本学生陸上競技選手権では、男女総合優勝を期待したい。

【佐藤太郎】

本学優勝選手(敬称略)

【男子】

110mH 大室秀樹(体育3年)

走高跳 戸邊直人(体育2年)

走幅跳 嶺村鴻汰(体育1年)

十種競技 高橋尚(体育4年)

100m 佐野布田実(体育4年)

走幅跳 中野瞳(体育3年)

三段跳 前田和香(体育3年)

4×100mリレー 筑波大学(中野立山 佐野阿部)



丹治史弥選手(体育4年)



大室秀樹選手(体育3年)

目次
2面 期待の新人

3面 硬式野球部・春季リーグバスター
馬術部サークルPR

4面 春季スポデー など

筑波スポーツ

平成23年6月24日(金) 第144号

題字: 中山雅史氏
(コンサドーレ札幌・蹴球部OB)

男子 総合順位	女子 総合順位
優勝 早稲田大学	優勝 筑波大学
2位 東海大学	2位 中央大学
3位 筑波大学	3位 日本体育大学
4位 日本大学	4位 平成国際大学
5位 中央大学	5位 国士舘大学



渡邊諒選手(体育4年)



中央・佐野布田実選手(体育4年)
左・中野瞳選手(体育3年)

期待の新人

2011

水田亜莉沙選手(体育1年)



女子ハンドボール部

躍進を続ける女子ハンドボール部に新たな戦力が加わった。水田亜莉沙選手(体育1年)だ。四天王寺高校では主将を務め、選抜大会で全国優勝も果たした。また、全日本の11年度年齢別強化指定選手にも選出されている。

入学して早二ヶ月。筑波大学のハンドボール部の雰囲気についてどう感じているのだろうか。「先輩が優しい。試合のやりにくさもないし、色々

と教えてくれる。互いに指摘しあったり、言い合ったりできるので良い雰囲気。水田選手はプレー中ブレイヤーに指示出しをするセンターというポジションだ。攻撃の司令塔であり、要である。そんなポジションだからこそ、このような部活の雰囲気はとても大事だろう。

先日行われたリーグ戦にも出場したが残念ながら総合6位、と結果は奮わなかった。

「フローター(センター、ライント、レフトのバックプレーヤー)の身長は高い。私は低い方なので、ディフェンスに對しての技術を身に付けて、色々な試合に活かしたい」と、次の試合に向けての意気込みも十分だ。また「このまま負けていけない。しっかりと練習してインカレにつなげたい」と、秋季リーグへの意気込みも語ってくれた。

「筑波のハンドボール部は伝統があり大学トップレベルの強さ。もともとまくなりたいというのが筑波を選んだ理由。そう語った水田選手の出身は熊本県。ハンドボールを始めたのは小学校4年生の時。部活動でハンドボールを選んだことがきっかけだ。高校時代は大阪で過ごし、そして筑波へとやってきた。「高校でも寮生活だったので一人暮らしに違和感はない。けれど、自炊したりお風呂に入ったり洗濯したり、疲れて帰って

きているので大変」。練習を毎日こなしつつ、家事をすべて自分でやらなければならぬ、という多忙な日々を送っている。「それでも高校時代より練習時間は減った。でも中身は違うし、集中力が続く」。短い時間の中でいかに密度の高い練習ができるのか。その点に高校と大学の違いを感じているようだ。

将来の夢について聞いてみると「正直考えたことはない。ハンドボールは好きだけど、実業団に入るほどの自信はまだない。今は目の前のことをしっかりとこなしたい」。そう語る水田選手からはハンドボールが好きで、高校時代からよく練習してきた。今後の目標は「大学でも日本一」だそう。常に高い向上心を持つ水田選手、今後の活躍に注目だ。

(三浦加奈・大庭夏海)

竹中祥選手(体育1年)



ラグビー部

こと、その立場であるからこそ上を狙える位置にいられるという話を話していた。「一番上で追いつかれないようにするよりも一番上を狙える位置にいたい。常に挑戦者でありたい。チャレンジしていきいたい」と語っていた。高校までのチームメイトが有名私立大に進学したり、海外の高校選手権決勝では、もうひとりの大型ルーキー水上選手率いる東福岡高校と引き分け両校優勝の結果だった。竹中選手の母校は強豪校のため卒業生の多くはやはり私立大に進学するようだ。そんな竹中選手は本学を選んだ。その理由として、対抗戦一部で戦う唯一の国公立大学である

こと、その立場であるからこそ上を狙える位置にいられるという話を話していた。「一番上で追いつかれないようにするよりも一番上を狙える位置にいたい。常に挑戦者でありたい。チャレンジしていきいたい」と語っていた。高校までのチームメイトが有名私立大に進学したり、海外の高校選手権決勝では、もうひとりの大型ルーキー水上選手率いる東福岡高校と引き分け両校優勝の結果だった。竹中選手の母校は強豪校のため卒業生の多くはやはり私立大に進学するようだ。そんな竹中選手は本学を選んだ。その理由として、対抗戦一部で戦う唯一の国公立大学である

自分自身の力が試される日々を送っているが、秋からの対抗戦や代表の対外試合では自分より格上の相手と戦う機会もますます増えてくるだろう。ラグビーは身体との接合が激しいスポーツのため、強い相手との試合は気持ちの面で負けないことも大切だ。そのことについても、「相手がどうであって、自分の強みであるスピードとパワーを生かすことを考えている。格下であっても格上であっても自分の力を全力でぶつける。自分にプライドを持つて戦う」と強く話してくれた。

また、自身のプレースタイルについても聞いてみた。竹中選手のポジションは「ウィング」と呼ばれていた。しかし「7人制の代表に選ばれ、授業に関係なく合宿や遠征が組まれている。だから、単位が取れるかどうか心配と、大物なラダーでは心配ごともあるようだ。その7人制の試合が5月29日に行われた。社会人が多く選出されている中で唯一の日本人大学生としてすべての試合にリザーブとして登録され、2回戦には出場を果たした。

大学1年目の今シーズン。彼はどんな活躍を見せるのだろうか。今年一年の目標である「チーム」の達成のために先輩のサポートを全力でやる。自分達1年が下から押し上げていく気持ちでやっていきたい」と語ってくれた。

昨年までのメンバーに加え、竹中選手をはじめとする多くの大型ルーキーが入部したラグビー部。9月には12月まで続くシーズンが始まる。本紙でも熱い戦いの様子をお伝えしていく予定だが、皆さんもぜひ試合に足を運び竹中選手をはじめラグビー部の活躍を直に見てほしい。

(大庭夏海)

赤松眞弘選手(体育1年)



男子バスケットボール部

昨年、全日本インカレで2年連続20回目の優勝を果たした陸上競技部女子。輝かしい実績を残している同部に、今年も多くの有望な新入生が加入した。その中でも、今回は赤松眞弘選手(体育1年)を紹介する。

赤松選手が陸上を始めたのは中学生の時。姉が陸上部に所属していたことがきっかけだった。高校は自分の実力を発揮できる場所を求め、陸上の名門である岡山の興譲館高校に進学。実家のある広島を離れ、寮生活を送りつつ、陸上に打ち込んだ。「高校での寮生活は特別な感じだった。掃除や洗濯を自分でこなすなど、特別な体験ができた」と当時を振り返った。

高校では駅伝や1500mといった中長距離で活躍。特に駅伝では高3の時、全国高校駅伝女子の部でアンカーを務め、優勝という結果を残した。さらに実力を認められ世界大会への出場を果たすなど、充実した高校での競技生活を過ごすことができ、各方面からの注目を受けた。

筑波大学への進学は、高校の陸上部顧問と話し合い、実際に大学を訪れるなど情報行っている。中華料理が好きな赤松選手は、寮生活に慣れつつ、陸上競技部で活躍することになった。休日は、仲のいい同期のバスケット部員と集まり、出かけた後、遊んだりしています。

入学して2ヶ月。大学生活はどうですか？「入学する前までは、大学の勉強は楽だと思っていたが、実際は大変でした。部活動については、震災の影響で現在総合体育館が使用できていない。そのため、常に刺激をもらっている練習に取り組みています。春のトーナメント戦は4位でしたが、他の上位チームとの力の差を実感しました。今はあまり、試合に出られない状態が続いています。しかしチームの現状を理解し、チームに足りない部分を自分が補いプレーで貢献したいです」。

大学での目標をお願いします「チームが目標とする3つの大きな大会、関東大学選手権のリーグ戦とトーナメント戦、全日本大学選手権の全てで優勝することが、一番の目標です。個人としては、まずレギュラーになり1試合20〜30点あげたい。また、大学3年時に行われるユニバーシアードの日本代表を目標にしたい」。

坂東拓選手(体育1年)



男子バスケットボール部

坂東拓選手(体育1年)は、北陸高校在学中にウィンターカップ優勝、世代別日本代表であるU18日本代表チームに選出された実力者である。

坂東選手のポジションはフォワード。身長183cm、体重90kgの恵まれた体を活かして、ゴールを狙い続ける。未来の筑波大学バスケットボール部

一人暮らしはどうですか？「入学当初から寮ではなくアパートで暮らしています。食事は栄養を考え、自炊をしています」。

中を追いかけて、名門校である大津高校に入学。高校時代はチームメイトと切磋琢磨して、毎日が充実していたと話。そして、幼馴染で憧れていた東海大学に入学した。入学直後の関東リーグ前期第一節の流通経済大学戦でデビュー。第二節の早稲田大学戦ではスタメンで出場した。早稲田戦では上村選手(体育2年)からのFKにヘディングをあわせ、決勝点を叩き込んだ。前半で先輩に迷惑をかけたので、ゴールを決めた時はほっとしたと話。一方で「前半、パスの精度が悪く、

を積極的に集め、早くから進学の意志を固めた。他の大学からも誘いはあったが、「筑波大学で陸上をする」という意志は変わらなかった。「筑波大学は陸上部が規模で実績もあるし、恵まれた環境で実績ある先輩も多くいる。それが自分へのいい刺激になると考えた。同じ学校の先輩がいたことや、教職課程が充実していたことも理由だった」と、その理由を話してくれた。

大学での練習環境は、「高校の時と違ってコーチらと相談したり、大会日程や自身の体調とも相談したりして、自分で練習内容やスケジュールを決める必要がある」と、自己管理の重要性を強く感じている。行っています。中華料理が好きな赤松選手は、寮生活に慣れつつ、陸上競技部で活躍することになった。休日は、仲のいい同期のバスケット部員と集まり、出かけた後、遊んだりしています。

車屋紳太郎選手(体育1年)



蹴球部

「本気」。このスローガンを掲げる今年の蹴球部にも期待の新人選手が名を連ねた。その中でも特に注目を集めるのが熊本県立大津高校在籍時、11年日本高校選抜に選ばれた

車屋紳太郎選手(体育1年)である。車屋選手がサッカーを始めたきっかけは兄に誘われたことと、5歳からクラブチームに入った。その後も、兄の背

中を追いかけて、名門校である大津高校に入学。高校時代はチームメイトと切磋琢磨して、毎日が充実していたと話。そして、幼馴染で憧れていた東海大学に入学した。入学直後の関東リーグ前期第一節の流通経済大学戦でデビュー。第二節の早稲田大学戦ではスタメンで出場した。早稲田戦では上村選手(体育2年)からのFKにヘディングをあわせ、決勝点を叩き込んだ。前半で先輩に迷惑をかけたので、ゴールを決めた時はほっとしたと話。一方で「前半、パスの精度が悪く、

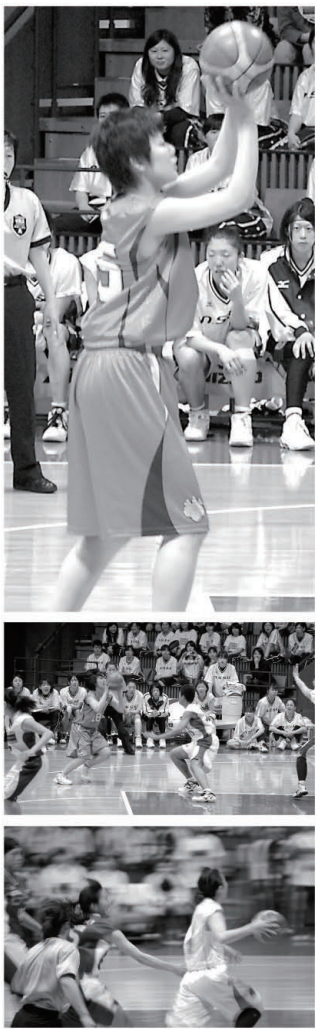
ディフェンスからゲームを作れなかった。反省しないといけない」とも思ったそう。蹴球部の雰囲気については「上下関係が厳しくなく、先輩方が優しい」と話す。推薦で入学した1年生の選手とは特に仲が良く、よく一緒に行動をしているそうだ。

恵まれた環境の蹴球部での目標は「今ほどに練習が大切なので早く慣れたい」とのこと。今はDFとして試合に起用されているが、「1対1には自信がある」と話す。「自分の持ち味が活かせるMFとしてプレーしたい」としっかりと答えてくれた。チームとしての目標は「取れるタイトル

はすべて取りたい」と話す車屋選手。サッカーへの「本気」が感じられた。そんな車屋選手の将来の夢は「ユースのある高校の教師になりたい。年を取ってもずっとサッカーに関わってきたい」と話してくれた。

二試合を終えて、「まずレギュラーに定着し、先輩に迷惑をかけないように、そして認められるように頑張りたい」と語る。毎日の厳しい練習の中でも、目標を忘れずに仲間たちと日々邁進していく車屋選手のこれからの活躍に期待したい。

(小峰朱理菜・上杉織美)



大型連休を迎えた5月1日。この日は肌寒く、あいにく天気が恵まれなかったが、会場となった国立代々木競技場第二体育館では熱戦が繰り広げられた。

今年で46回目を迎えた、日本体育大学と筑波大学による日筑バスケットボール定期戦「二ツク」と呼ばれることからも、例年4月29日に行われてきたが、今年は震災の影響により、5月1日に行われた。

本定期戦は、今年度初の公式試合であり、今後の選手たちの活動を左右する試合となる。午前中は「二軍チーム」による試合(Jr戦、開会式はさき、以下Jr戦)、開会式はさき、午後は本戦が行われた。Jr戦では男女ともに筑波大が勝利し、本選では女子が4年連続勝利という快挙を成し遂げた。

女子Jr戦では、第1ピリオドから保科祥選手(体育4年)、大西菜莉奈選手(体育3年)を中心に得点を重ねるが、ファウルが混み、徐々に日体大も追い上げてくる。第3ピ

リオドで一時日体大のペースになるものの、10点リードで最終ピリオドを迎え、その後モリドを上げた筑波大に軍配が上がった。

好調な出だしで第1ピリオドを21、21で終えた男子Jr戦。長谷川悠貴選手(体育4年)が連続3Pシュートを決め、波に乗る筑波大。全員出場、余裕を見せ、日体大とのリードを大きく広げて勝利となった。

開会式では東日本大震災で被災された方々のために黙とうがささげられ、受付ではチャリティー活動も行われた。また、節電対策の一環として、会場内の一部の照明も落とされた上での開幕となった。

本戦では男女ともに3年連続勝利をおさめている筑波大。4年生にとっては勝ちへのこだわりも強かる。午後、いよいよ本戦が始まった。

序盤から速攻で勢いに乗り、第1ピリオド終了時点で26・8という圧倒的な差を見せた筑波大。その後も相手のミスを誘い、着実に点を

重ねる。流れが変わったのは第3ピリオドだ。

このままでは終われない日体大は、積極的にドライブを仕掛けて差を縮め、第4ピリオドではその差を2点差にまで縮めた。最後は危うく逆転されそうになった筑波大。水谷佳代選手(体育4年)、伊集南選手(体育3年)による1on1でピンチを切り抜け、4年連続の勝利を手に入れた。攻防の激しい戦いが繰り広げられた男子本戦。山口亮彰選手(体育4年)や星野拓海選手(体育3年)を中心に得点を重ねるも、日体の流れを崩すことができない。リードを許したまま迎えた最終ピリオド。田渡修人選手(体育4年)の3Pシュートにより点差を縮めたが、無念にもファウルをとられ、81・93で最終ピリオドを終えた。

震災の影響で普段の練習場が壊滅的なダメージを受け、思うように練習できない中で迎えた公式戦。しかしそんな不安はどこにも感じられず、むしろ深刻としたプレーで

あつた。

今大会で新ユニフォームを披露した筑波大。鮮やかな「つくばブルー」に身をまみ、今までの伝統的なブルーに加え、新たな筑波大を見せた試合であった。

(上杉 織美・矢畑 洋佳)

バスケットボール部

伝統の一戦

日筑定期戦

サークルPR 馬術部

一ノ矢宿舎近くの東大通り沿いに、筑波大学馬術部が活動している馬場があるのを知っているだろうか。馬場には、馬を始め猫や犬もいて動物好きの人にとってはたまらない環境だ。

馬術部の朝はとて早い。部員たちは、火曜から日曜の早朝5時半から練習のため欠かさず馬場に向かう。朝5時半から8時というとても朝方な活動も馬術部の大きな特徴のひとつである。

筑波大学の数ある体育会が団体のなかでも唯一の生き物を相手にする団体である。だからこそそのやりがいや大変さがある。やりがいは、やはり馬を調教し、その成長を実感することや部員同士のチームワークにあるという。大変なことは、生き物だからこそ体調が悪くなることもあり、そうした馬のコンディションにどうしても左右されてしまうことだという。馬の



硬式野球部 春季リーグバスツアー

去る5月7日、野球部のバスツアーが開催された。5月に入り、春季リーグも終盤戦。ここまで厳しい結果が続いていた今シーズンだが、この日は城西大学相手に、バスツアー参加者の前で良い結果が出せるのか、注目されていた。大学を出発し、しばらくしたところで雨が降り出してしまった。バスの中では部員の企画によるビンゴ大会やビデオ鑑賞など楽しい企画が進むものの、この雨で試合はどうなるのだろうか心配な道中だった。2時間ほどして大田スタジアムに到着。現地も雨が降っていた。そんな雨の中、筑波ナインはグラウンドで準備運動を行っていた。バスツアー参加者は他の部員に案内されて観客席へ。

サイレンが鳴り試合開始。参加者ひとりひとりにメガホンが配られ、応援の準備は万端。バスの中で覚えた応援歌も部員の太鼓とリードに併せて歌った。その応援に後押しされてか、試合開始直後の1回裏、ゴロの間にランナーが生還し早速1点の先制点を奪う。しかしその後は、ランナーは出るものの、あと一本

のタイムリーに恵まれず両チームともゼロ行進が続いた。雨も徐々に弱まり、好機が訪れたのは7回。表の城西大の攻撃。二死二、三塁のピンチで本学ベンチは動き、宮谷陽介投手(体育2年)からエース久保貴大投手(体育4年)にピッチャーを交代。しかし、代わった久保投手もタイムリーを打たれ2点追加、逆転を許してしまう。そこで諦めずに攻めるのが本学ナイン。直後の7回裏の攻撃。山下雄大選手(体育4年)、丸山紘平選手(体育3年)のヒットと盗塁で無死一、三塁とすると、そこら大島建選手(体育4年)、矢野健太郎選手(体育4年)、松浦昌平選手(体育2年)の三連続タイムリーヒットで大きく逆転。一挙4得点を挙げた。ヒットも二ケタを安打となり、本学打線がここで爆発した。観客席の応援もヒートアップし、太鼓・メガホンで打つ手に力が入り、得点の度に歌われる応援歌「桐の

蹴球部 国立西が丘サッカー場にて開催!

中筑サッカー定期戦

7月16日(土)

11:45 二軍戦...Kick Off
13:10 OB戦...Kick Off
15:00 一軍戦...Kick Off

入場無料

中筑サッカー定期戦は今年で53回目を迎える歴史ある大会です。両校の競技力向上を目的に始まった今大会は、これまで多くのプロサッカー選手を輩出してきました。関東大学サッカーリーグでも毎回熱い戦いを繰り広げ、2年前には全日本大学サッカー選手権決勝でも戦った好カードが入場無料で観戦できます。ぜひ西が丘サッカー場へ足をお運びください。(寄稿:大西健)

結果一覧

【アメリカンフットボール部】
2011年度春季オープン
△筑波大14-14(横国大)

【硬式野球部】
2011年度首都大学野球春季リーグ戦

●筑波大0-2●東海大	○筑波大1-2●帝京大
●筑波大2-3●武蔵大	●筑波大2-4●武蔵大
●筑波大2-3●日本大	●筑波大0-3●日本大
●筑波大3-6●日体大	●筑波大5-4●城西大
●筑波大1-2●帝京大	●筑波大0-1●帝京大
●筑波大1-2●帝京大	●筑波大0-1●帝京大
●筑波大0-1●帝京大	●筑波大0-1●帝京大

【女子バスケットボール部】
第45回関東大学女子バスケットボール選手権大会

○筑波大1-52●明星大	○筑波大66-78●江戸川大
●筑波大58-65●順天堂大	●筑波大71-78●日体大
●筑波大71-78●日体大	●筑波大71-78●日体大

【女子ハンドボール部】
2011年関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦

●筑波大21-23●日体大	●筑波大22-21●東京女子大
●筑波大20-28●国士館大	●筑波大20-28●早稲田大
●筑波大22-17●日本女子大	●筑波大31-22●桐蔭大

【トライセービング部】
第24回全日本トライセービングプル選手権大会

女子ライオンズ2位	レスキアー竹村望(資源3年)
ペイント上原絢子(比文4年)	

4位 超智元太(体育4年)
男子ダブルスカル敗者A組
2位 櫻田諒(人文2年) 鈴木海渡(応理2年)
女子ダブルスカル敗者A組
4位 江藤麻子(国際4年) 深澤みのり(体育2年)

夏の陣特集・スポーツの秋到来!

10月中旬発行予定!!

次号予告

